

緑の地球 GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力

- アイヌ・人と自然の共存 P 2
- チコロナイ第1期総括・第2期計画 ... P 4
- 何かやりたいやつはないか! P 5



素朴で力強いアイヌの古式舞踊。生命のリズムが会場にひろがった (2~3ページ参照)

GENに参加するには

- ☆会員・会報購読者になる
- ☆自然と親しむ会・講演会・報告会・学習会に参加する
- ☆ワーキングツアーに参加する
- ☆ビデオ『黄土高原に緑を!』を見る
- ☆使用済みテレカ・オレカを集めて送る

etc. あなたのご参加を待っています!

1996・1

43

二風谷アイヌ資料館館長で参議院議員の萱野茂さんを迎えた講演会『アイヌ・人と自然の共存』（緑の地球ネットワーク、オーク200連絡協議会主催）を1月20日、大阪市港区のオークホールで開いた。講演会は2部に分かれ、第1部では平取アイヌ文化保存会のメンバーがアイヌ古式舞踊を披露。第2部の講演では萱野さんが自然と調和したアイヌ民族の生活のしかた“アイヌプリ”の実践を呼びかけた。会場は約300人の参加者で立ち見もでた。GENとしては3年前の発足記念シンポジウム以来のビッグイベントとなった。

第1部では同保存会のメンバー6人に加え、アイヌ舞踊を学校で練習している市立茨木西小学校5年生6人やチコナイ学習会の参加者ら計22人が男性は藍色、女性は白色の生地にししゅうを施したアイヌ民族衣装で登場。まず、漆塗り

のうつわのような“シントコ”をたたきながら、楽しい歌や踊りが始まることを告げる歌“ウポボ”を輪唱。鶴が大空を舞う姿をあらわす“ハララキ”、「ピーヤーチャッチャ」と軽快な歌声に合わせる雨つばめの踊り“チャビヤック”など5曲を踊った。

途中、保存会事務局長の貝澤耕一さんは「古い記録フィルムからやっと復活させた踊りもある。日本人が入り込んで民族の文化が消されてきた。それを掘り起こそうとしている」とアイヌ舞踊の現状を説明した。最後は会場の参加者も輪に加わり、約100人が「エンヤホーホイ」と声をかけ合いながら踊り、会場は一体となった。

講演では萱野さんはまず、自身の体

験を交えながら日本人に生活の場や文化を奪われてきたアイヌ民族の歴史を語った。実際にココラも歌いアイヌ文化を紹介。動物や木の名前の由来を説明しながら、自然と共存してきたアイヌ民族の生き方“アイヌプリ”の実践を呼びかけた。

今回の講演会はナショナルトラスト運動『チコロナイ』の第2期をはじめののに合わせ、運動の趣旨を多くの人に知ってもらい、賛同の輪を広げようと開いた。昨夏から計画。大阪市立弁天町市民学習センターなどの協力を得て開催した。萱野さん、平取アイヌ文化保存会のメンバーらの全面的な協力、金銭的にも、参加費とカンパでまかなうことができた。アイヌの人たち

のチコロナイ運動への期待の大きさが感じられた。

萱野さんの講演の要旨は次号に掲載する予定です。（岡田光司）

萱野茂さん講演会 アイヌ・人と自然の共存

アンケートから

たくさんの方にアンケートに答えていただきました。そのなかから、ほんの一部をご紹介します。ご協力ありがとうございました。

アイヌ古式舞踊について～

大地よりの息吹を感じる素晴らしい舞踊でした。(S)

初めてみせてもらいました。やっぱり、唄や舞踊は目でみ、耳できかなくては、と実感しました。もっと小規模の集まりで一緒にやりたいです。ただ、保存会の方々が、記録からほりおこして復元されているということは知りませんでした。勉強になりました。(H)

独自のリズム・テンポ、感激しました!! アイヌの人の心豊かなくらしぶりがうかがわれ、楽しいひとときでした。(K)

皆、表情がとても楽しそうでした。歌の題名や、歌そのものの意味(訳)

が知りたかった。(O)

歌と手びょうしだけの舞でもとてもよく表現されているし、楽しそうでした。アイヌの人々が、自然といかにうまくつきあっていたかが、わかるような気がします。(I)

リズムカルで、元気がでてくるように思いました。茨木市の小学生が参加していることについて、先進的な教育活動におどろきました。(M)

輪になって踊りに参加できてよかったです。輪の大切さがなんとなくわかった。(F)

講演について～

講演の内容から人と自然の共存の意味が解りました。(S)

素朴で温かなかたり口と、表現ゆた



小学校5年生の子どもたちも踊りの輪で大活躍

かな解説に心をうたれました! またぜひ聞きたいです!! おだやかな口調の中に厳しいアイヌの人々の歴史と現状をうたえられた姿に、自分たちのくらしのあり方をあらためて考えさせられました。(K)

『北海道』という土地になんとかあこがれのようなものがあって、今回、アイヌのことについて、ほとんど予備知識も何もないまま、この講演会へ来



アイヌの歴史、自然の恵みのなかでの暮らしをあたかな語り口で聞かせてくれた萱野茂さん

させていただきましたが、アイヌのしいたげられてきた過去の話聞いて、「なんてことを！」と腹がたち、いま、私に何ができるのかを考える機会を与えてもらったように思います。また、

アイヌの人々の自然観には、私自身もとても共感できる場所が多く、特に一人一人が自覚をもって、地球のことを考えていくことを大切にしていきたいと思えます。(S)

「アイヌの碑」を高校の課題図書で読んで、興味がありません。国語の先生に「一度現地へ行けば」といわれて、行ってみたいなど思っていました、大学生の

現在、この講演を聞いて、必ず行きたいと思えます。十分内容のある、楽しい講演でした。(I)

アイヌ語のヒビキが美しい。自然との共生をしているアイヌの姿が萱野氏

の人となりから伝わってくる。自然破壊の現状が心情的によく伝わった。江戸末期からの和人の暴挙がよくわかった。後世に伝える責任を感じる。(I)

「アイヌ」を知ることが「自然保護」につながるということを確認しました。(O)

厳しい内容を面白く聞かせてくれて、有意義でした。来てよかったです。現在でもアイヌの人たちがサケがとれないことは全く知りませんでした。(M)

自然といかにしてうまくつきあうか、アイヌの人の考え方がわかってきました。これから自然をどのように見ていくかヒントになったと思います。(I)

是非一度、二風谷を訪れたいと思っています。チコロナイには非常に興味を持っています。(T)

ユカラなども聞けると思っていたので、嬉しかった。また二風谷で話をききたいです。自分たち、そして他の民族、その生きる権利(自然も含め)についてまた考えていかなければ、と思いました。(I)

直接お話を聞いてよかったです。アイヌ語の話をもう少し聞きたかった。日本人がアイヌにしたひどく悪い点は改まっています。自分はどうかが問われます。(F)

チコロナイアイヌ語講座

～いやでもわかるアイヌ語～ (仮称) のお知らせ

自然=神とともに生きるアイヌ民族の文化を理解するために最良にして不可欠なもの—それがアイヌ語。関西にはアイヌ語を文字・発音・文法・会話から系統的にまなべる場所がこれまでありませんでしたが、「アイヌ語をまなぶことでチコロナイの運動やアイヌ文化理解をふかめていきたい」という会員の声をきっかけに「アイヌ語講座」開講計画がもちあがり、第1回の会を以下の要領でおこなうこととなりました。環境問題の視点からも「アイヌ文化のすばらしさ」を理解するため、気

楽に気長にあなたも参加してみませんか? (受験英語のようにアクセクする必要なし! ご安心を)

- 日時 2月10日(土) 14時~15時30分
- 場所 GEN事務所
- 内容 基本方針確認(会計を含む)、教材等検討
- 世話人・講師 平石清隆(公立高校英語教諭・アイヌ語研究誌『ウエネウサラ』同人)
- 問い合わせ 平石清隆(Tel. 0745-23-5627)

チコロナイ学習会のご案内
『邪馬台国は三島のアイの地
にあった。卑弥呼の墓は又
ササン幣久良山であった』

- 日時 2月10日(土) 16時~18時
- 場所 GEN事務所(JR環状線・地下鉄中央線「弁天町」駅すぐ、TEL.06-583-1719)
- 講師 梅鉢明英(高校教員)
- 参加費 100円+カンパ
- 連絡先 円満堂修治(Tel./FAX.078-592-846(夜9時以降))

春の二風谷ワーキングツアー募集

- 日時 3月28日(木) 夕方~4月1日(月) 夜
- 行程 関西国際空港→千歳→札幌(1泊)→二風谷(3泊)→千歳→関西国際空港
- 内容 二風谷での3日間のうち、1日は博物館見学や現地との交流、2日間はチコロナイの山の見学と山林作業(天候によって変更あり)。
- 費用 関西国際空港で集合、解散まで全てで、1人7万円(GEN会員・会報購読者でない人は別途年間会報購読料2,000円が必要)
- 募集人数 7~8人。全コース参加できる人にかぎりあります。7人集まらないと団体割引が取れないので、内容変更か中止になることもあります。
- 締め切り 8人そろいしだい締め切ります。最終締め切り2月20日。
- 申し込み・問い合わせ チコロナイ担当世話人 武田繁典(Tel./FAX.0727-63-4171)

チコロナイ 第1期の概要報告

●期間

1994.12.10～1995.3.31の予定でしたが12月9日まで延長して、1年間としました。すなわち、『世界の先住民の国際10年』の1年目ということになります。

●寄付

269人、総額4,054,870円。寄付していただいた人は北海道から鹿児島県まで広範囲で、近畿が55%でもっとも多く、北海道の16%、関東の13%とつづきます。金額は500円から、いちばん多い人で746,250円。この方は匿名希望で、冬のボーナスをそっくり送ってこられたようでした。また、少額ずつですが6回も送ってくださった方をはじめ、繰り返して寄付された方が18人もいます。

●買い取り地

3.4775ヘクタール。所在、地番は、平取町字二風谷15番の5。1月13日登記。35年ほど前に植えたカラマツがまばらに残る雑木林です。

●保全契約地

約21ヘクタール。平取町旭にある、故貝澤正氏が残された山林。1年ごとの契約で、維持管理の費用やワーキングツアーで使わせていただくお礼などを1年間1ヘクタールにつき5,000円を上限として支払います。

●買い取り地・保全契約地の利用

山林への入山、利用は、現地の整備、受け入れ態勢が整うまで当分の間、ワーキングツアーや特別に計画する団体での見学会などに限ります。世話人の武田か、現地世話人の貝澤にお問い合わせください。

●この1年間の活動

【現地研修・交流3回】

- 3月 買い取り山林の下見、相談、山林作業の体験、現地との交流をかねたツアー。約1週間、6人。
- 8月 第2回ワーキングツアー。6日間。25人。
- 1月 アイヌ古式舞踊の体験と山林見学、現地との交流のツアー。4日間。9人。

【学習会】大阪でチコロナイ学習会8回
4月 学習会の計画、相談

5月 ナショナルトラスト・チコロナイの趣旨と今後の方向。

6月 イヤでもわかるアイヌ語—アイヌ語に秘められたおもしろい話、深い意味—

7月 ビデオ『共生への道』—日本の先住民族・アイヌ—

9月 二風谷ワーキングツアーの報告

10月 日本とロシアによるアイヌ民族侵略の歴史

11月 国立民族学博物館見学と大塚和義教授のお話

12月 アジアの先住民族問題について
第9回目は1月20日の菅野茂氏の講演会でした。10回目は2月10日で、今後毎月第2土曜日に続けていきます。

●通信

最初の予定では、2,000円以上の寄付者に1年間に2回送ることになっていましたが、今年は、寄付者全員に『緑の地球ネットワーク』の会報（1年間10回）を送りました。ただし、『緑の地球ネットワーク』全体の会計への負担が大きいため、『緑の地球ネットワーク』会員と購読者以外の方は、第2期からは年間2回にします。できましたら、会員（年間12,000円、学生3,000円）か購読者（年間2,000円）になってくださることをお願いいたします。

●会計決算

【期間】 1994年12月10日～1995年12月9日

【収入】

寄付（269人）	4,054,870円
書籍売上利益	830円
計	4,055,700円

【支出】

土地買い取り代金（3.4ha）	2,970,000円
代金送金料	721円
保全契約のために留保（21ha×5,000円）	110,000円
土地の維持・管理費のために留保（寄付金の5%）	210,000円
第2期へ繰り越し	764,979円
計	4,055,700円
残金	0円

ただし、これ以外にリーフレット印

刷、郵送などにかかった費用は、チコロナイ部会の活動の初年度ということで、『緑の地球ネットワーク』の全体会計でまかないました。しかし、第2期計画からは、特に指定がない限り、寄付金の5%を通信・事務費などにあてるため『緑の地球ネットワーク』の全体会計へいれます。また買い取る予定の土地の維持管理のために5%を留保して、90%を買い取りと保全契約の費用にあてるようにします。

チコロナイ 第2期計画

●期間

1995.12.10～1997.12.9の2年間

●対象地域

平取町二風谷周辺の山林

●活動内容

◎ナショナルトラストによる買い取り
第1期につづき、約6ヘクタールの山林買い取りを目標にし、達成しだい順次拡大して、将来的には3林班（約900ヘクタール）をめざす。

◎保全契約

第1期につづき、順次増加させる（1ヘクタールを1年間5,000円程度で契約）

◎募金活動

目標 700万円

寄付金の使途に指定がない場合は、土地買い取り、保全契約に90%、土地の維持管理に5%、通信・事務費等に5%をあてる。

◎現地研修・交流、学習会、講演会など

◎通信発行（年間2回以上）

●組織

世話人 武田繁典

現地世話人 貝澤耕一

事務局 緑の地球ネットワーク

昨年12月10日以降、1月16日までに14人から172,500円が送られてきました。そのうち、第1期から継続の人が8人です。また新しい人たちもどんどん仲間の輪に加わってきています。第1期からの繰越金もあわせて、すでに937,479円になりました。きっと2年間で目標の700万円を達成できるでしょう。



何かやりたいやつはないか!?

全ジャスコ労働組合 山永 ユカリ

私たちは、『何かやりたいやつはないか?』というテーマで組合員に中国黄土高原緑化ワーキングツアーへの参画を呼びかけています。

全ジャスコ労働組合は、スーパージャスコに働く仲間の12,000名の組織です。昨年、阪神淡路大震災がおこった時、全国各地から『私に何かできないでしょうか?』という問い合わせや現地にもどうしても行きたいという方がたが絶えなかったということがありました。このことをきっかけに私たちは、組合員のみなさんになんらかの形で社会に貢献したい、また、その貢献のなかから自分らしさや自分の存在意義を認識し、これからの時代の自分の生き方を築いていきたいというニーズがあることを知りました。そういう意味で、私たちは組合員のみなさんに『何かやりたいやつはないか?』という呼びかけをして中国黄土高原の緑化活動への参画をはたらきかけています。

具体的には、ふたつのことを計画しています。ひとつは、5年、10年と長期にわたって組合員のワーキングツアーへの参加を継続して実施をし中国の

環境を考える人の輪を拡げていきます。今年は第1回として4月8日から13日にかけて30名に参加してもらう予定です。参加したメンバーで毎年、毎年果樹園を作っていくことを計画しています。もうひとつは、日常、たくさんの人がこの活動に参画できるように、各地区の女性を中心に使用済みテレホンカードの回収を店ごとにおこなっていきます。昨年11月からはじめてすでに9,000枚以上(1月現在)が回収されました。日頃のちょっとした気づかいで参加できる活動として、これも息長く続けたいと思っています。今後、私たちはワーキングツアーに参加した人たちがまわりの組合員に中国緑化活動の話の輪を拡げることで、5年10年するうちに、中国黄土高原の話が組合員のなかで共通の言葉として語られるような活動にしていきたいと思っています。

私も昨年の夏にワーキングツアーに参加してきました。帰国するやいなや仲間に話さずにはおられない状態になりました。『中国どうだった?』と聞かれる前に、『中国の緑化活動にきててね』と話をしている始末。日本



小学校建設のレンガを運ぶ山永さん(左端)

で生活していれば決して得ることのできない体験をしてきました。ものがあるふれ、何不自由なくすべてにおいて恵まれていると思われているこの日本にいま、何か欠けているのではないかと感じました。恵まれすぎていること、自然の尊さ、人のためになるということなど自分にとっては大きな発見でした。私の役割は、この活動を多くの組合員のみなさんに伝えていくことだと考えています。

私たちは緑の地球ネットワークの活動に参画されているみなさんと共に、この活動が息の長い活動として続き、中国黄土高原が緑でおおわれ、人々の暮らしが少しでも豊かになるようにと考えています。そして私たちの活動がその一助になればと思っています。

1996 春の黄土高原ワーキングツアーへのお誘い

寒いという知らせに防寒準備をそろえて行ったら昼間は25℃という暖かさに驚いた94年。4月に入ったというのに雪が無い、零下の寒さに震え上がった95年。回を重ねて、もうよくわかったかと思っても、何があるかわからないのが黄土高原です。

とくに95年は災害があいつぎました。干ばつ、洪水、長雨、早霜。その厳しい年をこえて、GENの緑化協力が地元の人々にどう受けとめられているのか確かめるチャンスです。

春の黄土高原WTの特長は、なんといっても植林。天候さえよければ、ふしづしが痛くなるほど作業ができます。もちろん、参加者各自の無理のないペースで結構です。

また、今回は万里の長城の村や、温泉なども日程に組み込む予定です。さらに、この会報43号から新しく『緑の中

国〈歴史篇〉』の連載がはじまった上田信先生も参加予定です。

今回、航空運賃の値下げにより、ご参加いただきやすい費用になりました。ぜひ、この機会をご利用ください。

●日程

3月26日(火)～4月5日(金)

※関西新空港発着

●費用

一般=16万円、学生=15万円(航空運賃、中国での宿泊費/食費/交通費、ビザ取得手数料、GENの会費1年分をふくむ。中国国際航空利用予定)

●お申し込み、お問い合わせはGEN事務所まで。TEL. 06-583-1719

●申し込み締め切り：3月5日

黄土高原の緑化協力

基礎づくりから新しい1歩を

5年め迎えた協力活動

緑の地球ネットワークが黄土高原での緑化協力をはじめたのは1992年1月でしたから、はやいものでもう5年めになります。

この春までに協力によって植えられる苗木はおよそ366万本、1,440haになりますから、その発展はかなり速かったといえるでしょう。しかし、地元の人たちやカウンターパートの大同市青年連合会などとのあいだでつちかった相互理解と信頼関係は、数字に表せる成果以上に重要なものかもしれません。

大同での会議から

大同では昨年末、大同事務所と各県・各プロジェクトの責任者が集まって、「中日共同緑化94～96年度活動会議」を開催しました。その要点を紹介しましょう。

1. 95年度計画はかなり順調に進行している。カギになるのは管理と技術である。現地での管理方式は集団管理、請負管理、会社方式の管理などいろいろ試行しているが、結論をだすまでの経験の蓄積がない。一方、果樹の剪定、農薬散布などが重要な段階にさしかかり、技術の向上が求められる。各県に協力緑化技術グループを組織し、専門家を顧問に迎えるなどの措置をとり、責任体制を確立する。
2. 96年春に植える予定のものを一部95年秋に植えてみた。結果はとてもいいので、これからは秋に植えることも検討したい。
3. これまでの経験からつぎの教訓をえた。1. 協力ポイントの設定に真剣でなければならない。自然・地理条件はもちろん考慮すべきだが、指導部や村民の緑化にたいする意識など人的要素が重要である。2. 緑化の意義をよく宣伝し、激励するしごとをりっぱにやる必要がある。3. 整地作業・苗木の選択・栽植など具体的なしごとをきちんとすること。4. 実施

状況をしっかり検査する。

5. 技術の提供などサービス体制を確立すること。県ごとに重点ポイントを決め、いい典型をつくりだして、その経験を全体におしひろげる。
4. 地球環境林センターを重点的に発展させることとし、大同事務所の直接管理下におき、専門家を派遣する。
5. 資金の管理をより厳格にし、審査・報告体制を確立する。
6. 条件の悪い村では、その日を生きることだけに頭が占領されていたり、教育をうけていなかったり、長い目で生活の向上を考える余裕がなく、それが緑化への自覚的参加を妨げている。貧しい農村の自立を助け、教育条件を改善するための活動をあわせて展開したい。

最後の項目については、小学校を建て替えたり、給水設備をつくったり、これまでも実施してきたものを、より統一的におこない、あわせて地域格差の是正をはかる意義もあり、それ自体は積極的な提案なのですが、さらに考慮すべき問題もあるため、これからよく相談したいと思っています。

前提となる現地の状況なしに、各項目の意味をすべて理解していただくことはできないとしても、このかんの経験の蓄積はおわかりいただけだと思います。

新しい協力プロジェクト

あわせて96年度のプロジェクト案も提案されてきました。丘陵地帯を中心とする大同市北部、山地を中心とする大同市南部、そして地球環境林センターの大きく3つの部分に分け、継続部分も含め、全部で25プロジェクト、730ha、130万本（苗圃などを除く）の規模です。これから、さらに協議をふかめ、日本での資金の調達をふまえて、



現地ではいまも植林の準備がすすむ

6月末には最終確定する予定です。

私たちとしては、とくに地球環境林センターを重視し、良質の苗の供給、見本園や実験園の充実、技術水準の向上と人材養成などをつうじて、プロジェクト全体を強化していきたいと考えています。それには、立花代表をはじめ、日本の専門家の協力体制を強化することがとても重要になっていると思います。（高見邦雄）

ビデオ『黄土高原に緑を！』

普及にご協力を

次ページに、小学校4年生の感想文を紹介していますが、このビデオを子どもたちに見せた林先生によると、「3年生にはむずかしく、なんとか4年生にはいけそうです」ということです。なお、来年の6年生の理科の教科書に、中国で木を植えている写真が載っているそうです。一緒にこのビデオを見てもらったら1枚の写真からぐっと世界が広がりますね。

●ビデオ『黄土高原に緑を！』

●ビデオ作品・28分・カラー

●定 価 5,000円

●会員価格 3,500円

●郵送料 390円

地球環境基金の助成をうけて制作しました。

ビデオ『黄土高原に緑を！』を見て

ビデオ『黄土高原に緑を！』を見た大阪市立加島小学校の4年生のみなさんが、感想文を送ってくれました。一部をここに紹介します。

▲中国の山は、草とか木がないことがわかった。それで、日本人が、うえにきとった。木を、42万本もうえたなんてすごい。ほかの山は、緑がいっぱい。だいちの風は、うえたくさを、とばすぐらいなんて、すごい。じめんの上に、しおが、あるなんてすごい。クレマチスという花は、きれい。マオウは、すごい花。左がわは、くさが、大きいのに、右は、くさが、ないのか？ かいにん県の木が、1本たおれていた。中国の人が、土を、ほったら、黒いのがでていた。うえた木は、げん気にそだって、大きい木に、なってほしいと思います。

▲ビデオを見て、ほんとに緑がないな、と思いました。そして、前緑がなかったところに、緑をうえていくなんてとてもすごいと思った。それと、マツがいろいろあって、そのうちなんこかがうえてるなんてすごい。それと、4万本はどうえるなんて人じゃできないこ

とだと思う。

▲がけにお寺がへばりついているのを見ておどろいた。それに、学校までつくるなんてすごいけど、そつぎょうでできるのが半数ほどというのは、さびしいけど、かじゅえんまでつくるのは、すごい。

▲私は、大同というところまで行ってよくがんばったなーと思いました。大同というところまでいこうと思うくらいに森林を大切にしている人だなーと思いました。

私は、これからも木を大切に、がんばってほしいと思いました。私も協力したいです。

▲日本の人と中国の人がきょう力してたくさん木をうえているのがすごいし、たったの4か月でづくりのれんがの家ができたのがすごかった。それに、すながこおってしまっでぜんぜんすながほれないののがんばって木をたくさんうえてすごいな、と思った。

それに、あかるく、おまつりなどをしてがんばってあたらしい子どもたちのためのがっこうをつくって、えらいなどおもいました。

▲ほんとうに木や緑がないのかなあと思った。ビデオを見て「ほんまにない」というのがわかった。今から木や緑をつくるっていうのは、あと何年かかかるのかなあと私は、思いました。食べるものもすくなくなって、雨で土もながされてしまうのは、かなしい。塩がわきでてきて植物がそだたないのはひじょうにざんねんだと思った。南のほうは、かんそうがはげしいから、南のほうは、植物がそだたないっていうのがわかった。水ぶそくで植物がそだたないのもざんねんだなあと思いました。

▲木は、うえたらどこでも育つと、思っていたけれど、場所によってかわってしまうのもあるんだな。と思いました。それから、どうやって土から塩がでてくるんだろう。

それからお寺ががけと合体してるなんてすごいな。と思いました。

それから日本が中国に、にっちゅう戦争で土地を焼いたなんてしりませんでした。でも、3万2千本もスコップで、ていねいにほるなんて中国人はすごいな。と思いました。やっぱり緑がないと大変なことになるんだな。とつくづくビデオでしりました。これからは私も木を切ることに反対します。

緑の中国 歴史篇 1

上田 信 (立教大学助教授)

中国で代表的な河川の名前を挙げなさいといったら、まず最初に答えに出てくるものは「黄河」だと思います。文字どおり「黄色い川」だからそう呼ばれてきた河川なのですが、実はこの名称が固定したのは前漢の初頭ごろのこと。それより以前は、ただ「河」と呼ばれていたようです。

漢字の起源を古代の民俗を復元しながら述べている漢字学者に、白川静という先生がいます。その人の説によると、「河」は「水+可」ではなく、もとの字形では「水+丁」であったようで、「丁」は木の枝のかたちを示しているのだそうです。黄河の神様を古代の人びとがお祭りするときに、森から

木の枝を伐り出してきて用いていたのでしょう。漢字の起源になった甲骨文字が生まれた殷の時代には、黄河の兩岸はうっそうとした森林に覆われていたのです。川は森を養い、森は川を支えるといった河川と森林の深い関係を、古代の中国人はちゃんと認識していた



のかも知れませんね。当時は黄土高原にも落葉広葉樹の林が広がり、黄土が大量に「河」に流れ出すということもなかったようです。そのために「河」は黄色く濁ってはいなかったと考えられます。

「河」が「黄河」と呼ばれるようになった理由は、いくつか考えられます。殷の時代には中国の世界は狭く、今の黄河は「河」、淮河は「淮」と呼ぶだけで十分だったのが、次第に地理の知識が増えるに従って、河川の一本一本にそれぞれ漢字を造っていくのが面倒になったということも考えられます。河川の名称を漢字ふたつで表記すれば、漢字を組み合わせればよいわけです。しかし、なぜ「黄」なのでしょう。かつては黄色くなかった「河」が、前漢の時代にはまさに黄色くなっていたのです。森林の破壊がその原因です。

劇団らせん館 カムバック公演

多言語演劇

ちりぬるを

多彩な出演者たちがそれぞれの言葉を用いた、多言語演劇を日本初公開。

■大阪公演

●会場 『OXYギャラリー』

(大阪市住之江区北1-6-39、ニュートラム中ふ頭駅)

●2月2日(金) 3日(土) 19時～

2月4日(日) 14時～

●入場料 一般2800円 学生2300円

(前売は各2500円、2000円。取扱はチケットぴあ、チケットセゾン)

●チケット予約 劇団らせん館

(TEL/FAX. 0798-65-4607)

編集後記

『自然と親しむ会』の案内がはいりませんでした。みなさん、春をさがしに行きませんか(チラシを見てね)。

はっさく、ブントンのご案内

高知の田中さんから、今回ははっさくとブントンのご案内です。

●はっさく(無農薬、有機栽培)

10kg 3,000円(無選別)

出荷時期 3月上旬～4月上旬

●土佐ブント(低農薬、有機栽培)

5kg 2L 10玉前後 2,800円

L 12玉前後 2,300円

M 15玉前後 1,800円

※10kg箱もあります。

出荷時期 2月10日～4月上旬

送料(関西620円、関東820円)別途

●申し込み 田中隆一さん

〒781-74 高知県安芸郡東洋町甲浦

TEL/FAX. 08872-9-2500

※売り上げの一部をGENに寄付してい

ただいていますので「GENの紹介」

とそえてお申し込みください。

ひきつづきテレカ回収を
よろしく

使用済みテレカの回収にご協力いただき、ありがとうございます。先日換金してきたのですが、大変ショックだったことに、買い取り価格が下落して、10,200枚を1枚あたり4円で買い取ってもらい、40,800円になりました。

今後も回収をつづけますので、ご協力をお願いします。なお、下記の点にご留意いただけるとありがたいです。

◎折れ曲がったものや、汚れのひどいものは換金できません。

◎換金できるのはテレカとJRのオレンジカードだけです。

◎テレカ・オレカ以外でも中国で記念品として使えそうなデザインのきれいなものならOKです。

◎できれば種類別にわけて、表・裏の向きをそろえて送ってください。